

**特集****小学校キャンプでの観望会の実施**

萩原拓也、加藤明音、藤原隆成、鈴木雅也、伊藤信成（三重大学教育学部）

**1. はじめに**

三重大学教育学部附属小学校では第5学年でキャンプを実施している。以前よりキャンプでの観望会の実施依頼はあったものの、天候不良等で実施できない年が続き、昨年度初めて望遠鏡を用いた観望会を実施することができた。近年、学校を取り巻く様々な要因から、普段の学校活動の中では夜間の天体観望は行いにくくなっている。そんな中、キャンプでの観望会は学級単位で星を見ることができ数少ない機会である。今回は、観望会の実施を通して見えてきた、キャンプや林間学校での観望会のメリット・デメリットについて報告する。

**2. 観望会の実施概要**

観望会は、四日市市の少年自然の家で2016年7月19日の20:00~21:00の1時間で行った。少年自然の家は、四日市市の中心部から15kmほど離れており、市内に比べ夜空は暗い。ただ、観望会当日は満月であり、立地の影響はなかった。

観望会では、月、火星と土星、夏の星座を観察対象とした。クラスが3クラスであるため、観察地点を月ブロック、火星・土星ブロック、星座ブロックの3ブロックに分け、クラス単位で20分毎にブロックを移動する方式とした。月ブロックと火星・土星ブロックには学生を2名ずつ配置し、星座ブロックは大学教員1名が担当した。また、火星・土星ブロックでは、火星と土星用に望遠鏡を1台ずつの計2台を設置し、月ブロックでは小型のスピカ2台を配置した。

**3. 観望会後の反応****(1) 児童の反応**

- ・興奮の中にも既習知識と絡めて友達と議論する様子が見受けられた。
- ・友達の興奮が伝播することで、関心が薄かった児童も興味を持った様だった。

**(2) 観望会を実施した大学生の感想**

観望会に参加した4名の学生（内2名が天文研究室所属）からは次の感想が得られた。

- ・望遠鏡操作や天体について事前勉強会が必要。
- ・児童が喜ぶ姿を見て教える喜びの本質に触れられた。

**(3) 小学校学校教員からの意見**

- ・教師だけではできない貴重な体験だった。
- ・保護者の送迎が不要であり、保険適用範囲も明確であるので、学校内での実施に比べ実施がし易い。

以上より、キャンプ等での学級単位の観望会では、時間の制約により個別の質問等への時間が十分に取れないというデメリットはあるものの、それまで天体への関心が低かった児童の興味・関心を刺激することができるのと同時に、安全の確保という点から小学校教員にとってもメリットがあること、学生の実習の場としても有効であることがわかった。